3. エンライトンメント（ 光明を得ること ）Enlight

光明を得る最初の者になろうとする野心をすべて落としなさい。
個人的なエンライトメントはありません。個人はみな、全体とひとつに結ばれています。

仏陀は天上の門に着いた。もちろんそこの人びとは待っていた。彼らは門を開いて、彼を歓迎した。だが彼は門に背を向け、そして世界を見た――同じ道の上にいる何百万もの魂たちがもがき、惨めに、苦悶して、天門の番人は言った。「お入りください！ 私たちはずっとあなたをお待ちしていました」

ところが仏陀は言った。「ほかの者たちが辿り着いていないのに、どうして私がいけよう?
まだそのときではないようだ。全体がまだ入っていないのに、どうして私が入れよう？ 私は待たなければならない。私の手は門のなかに届いているのに、私の足はまだ届いていないかのようだ。私は待たなければならない

このすばらしい物語のなかでは、仏陀はいつまでも待っていると言われている。
彼は待たなければならない――誰ひとり孤島ではない。私たちは大陸を形作っている。私たちはいっしょだ。私はあなた方より少し先まで足を運んだかもしれない。だが私は離れてはありえない。そしていま、私はその個人は少し先まで足を運ぶことはできる。それだけのことだ。だが彼らは全体とひとつに結ばれたままだ。
TANTRA：THE SUPREME UNDERSTANDING, pp.130-131

Revision #3
Created 3 October 2024 06:01:18 by ゆう
Updated 6 October 2024 00:06:12 by ゆう